

平成 28 年度 新城設楽地域産業労働会議における主な発言要旨

日時：平成 28 年 8 月 24 日（水）午後 2 時から 4 時まで

場所：愛知県新城設楽総合庁舎 2 階 第 1 会議室

（人口減少地域の特性）

- ・我が国では 1995 年以降高齢社会になっており、愛知県でも同じようなものである。特に山間地は人口減少が激しい。人口が増加するところは良いが、地域により異なるので、地域の特色を出してもらいたい。
- ・地元産婦人科も無く、若い人が増えにくいのが現状である。体調不良で他地域の病院に行かざるを得ないようでは人口の流失が進行してしまう。また、産業についても、愛知県全体では良いが、地域によって落差が大きい。地域の事情を反映してこれからの施策を行ってもらいたい。
- ・新城インターチェンジ効果は大きい。浜松、岡崎からも通勤可能で、優秀な人を採用することができる。11 月に行われる新城ラリーなど、新城はアウトドアスポーツのメッカであり、若者が新城に関心を持ちだしている。環境が変わってきており、この地域は悲観することはない。いずれにしても自助努力が大事である。愛知県は日本一恵まれている。いかに魅力的にするか、魅力があれば、そこに、若者はいずれ戻ってくる。明るく将来を考えることが大切である。

（若年者雇用対策及び定着支援）

- ・当地域における雇用状況は非常に厳しい。雇用したい会社は何社かあるのだが、求人をして人も集まらず、頭を抱えているのが現状である。
- ・ここ 1、2 年で、ハローワークに 2、3 人の求人を出しているが反応が無い。求人情報誌にも掲載したが、こちらも同じく反応が無い。名古屋での転職フェアにブースを出して参加したが、会社について説明し、いい雰囲気になっても、会社の所在地が山間地だと分かると、断られるというのを繰り返している。
- ・新城公共職業安定所管内では、仕事を求めている人が減少傾向にあり、また、45 歳以上が半数以上を占めており、若年層が少ない状況にある。
- ・建設業関係、介護、福祉の事業所からの求人では、経験者・若年層を希望しており、ミスマッチが生じている状況にある。
- ・新規高等学校卒業予定者については、7 月現在、就職希望者 134 名に対し、管内企業からの求人は 146 名となっている。昨年度最終は、就職希望者 130 名全員が就職している。
- ・首都圏からの若年層の I ターン、J ターンは、全国の自治体、企業が行っていることで、目立つたことをしないと人材が確保できない、企業に興味を持ってもらえない。将来の雇用に不安を感じる。
- ・建設業では、現場監督の採用に苦慮している。現場監督は資格を取るのに実務経験がいるので年数がかかるが、現場監督の転職は非常に少なく、中途採用が非常に厳しい。新規採用するにしても、今の学生はウェブで就職する会社を検索するため、山間地の建設会社はヒットせず、採用は非常に難しい。
- ・就職相談者に関してだが、どんな仕事がしたいのかという掘り起こしの中での 1 対 1 のマッチン

グの必要性を感じる。また、就職に際し、学生が県庁や市役所へ相談に行くとは考えにくい。民間の力を借りたマッチングを進めたほうがよい。

- ・雇用について、少子高齢化で国内に人がいない中で、国内の他の地域から無理無理持ってくるのがよいのか、海外から人材を持ってくるほうがよいのか。人材自体のパイが無いことを真剣に考えるべき。
- ・海外からの雇用の一環として、外国人研修生を受け入れている。ベトナム等海外からの期間工が多く、地元で高卒者を採用しない企業もある。
- ・外国人が低賃金ならば、企業側が日本人の採用を控えるのではないかという懸念がある。
- ・非正規雇用労働者の正規社員転換、待遇改善を進める一環として、正社員求人の確保に努めると同時に、管内には高齢者・女性の求職者が多く、また、短時間労働を希望しており、パート求人の確保にも力を入れている。
- ・副業に関しては、低コストの賃金で雇える従業員として、派遣業の二の舞になり、結局は地位の不安定化をもたらすのではないか。

(女性の力の活用)

- ・最近、地元で婿を迎えた地元の女性が地域で受け入れられ活躍している。婚活というと女性に来てもらおうと思われがちだが、その逆の、地元の女性が市外の男性を婿として迎え入れるという発想も一つの方策ではないか。出産時には近くに自分の母親がおり、頼りになるというメリットもある。
- ・女性の雇用について、工場長や部長などの管理職にも女性が登用されている。女性の力をいかに活用するかが重要であると思う。

(県への要望)

- ・「あいち産業労働ビジョン2016-2020」では、「サービス産業支援を強化」とあるが、県に、当地域の高齢者や買い物弱者への支援事業についての補助金の要望予定なのでよろしく願いしたい。
- ・行政には、若年者のIターン等新規農業従事者の方へ、住居の準備・斡旋をお願いしたい。空き家利用といっても、田舎の人はお盆に帰省する等の理由で持ち家を貸し渋る。空き家利用は簡単ではない。